

MeMe Design School 2014

www.memedesign.org

デザインを

学ぶための

ブックガイド

2014年度ミームデザイン学校の講師たちが、それぞれの視点で選んだ

「デザインを学ぶ人にすすめたい本」。

デザインを学びたいと思ったときにはもちろん、デザインの現在と未来を考えるために、このブックガイドをお役立てください。

タイトル、著者、発行所、発行年、選者のコメントの順に記載しています。

ミームデザイン学校は、週末を利用し、デザインの実技と理念を学習できる、社会人のための学校です。講義は、第一線のデザイナー陣と、関連領域のエキスパートとのコラボレーションにより進められ、多様な知とデザインが有機的に結びつくことを目指しています。

2015年度生徒募集中心!
1次締切は3月17日(火)

ミームデザイン学校事務局
東京都新宿区西新宿4-31-3-1010
TEL.03-5350-2802
email.office@memedesign.org

秋山伸 <p><i>AKIYAMA Shin</i></p>	副田高行 <p><i>SOEDA Takayuki</i></p>	松田行正 <p><i>MATSUDA Yukimasa</i></p>
安藤隆 <p><i>ANDO Takashi</i></p>	鷹野隆大 <p><i>TAKANO Ryudai</i></p>	向井周太郎 <p><i>MUKAI Shutarō</i></p>
イエン・ライナム <p><i>Ian LYNAM</i></p>	田中良治 <p><i>TANAKA Ryuji</i></p>	室賀清徳 <p><i>MUROGA Kiyonori</i></p>
白井敬尚 <p><i>SHIRAI Yoshinobu</i></p>	中垣信夫 <p><i>NAKAGAKI Nobuo</i></p>	山崎和彦 <p><i>YAMAZAKI Kazuhiko</i></p>
鈴木一誌 <p><i>SUZUKI Hitoshi</i></p>	中野豪雄 <p><i>NAKANO Takeo</i></p>	米澤敬 <p><i>YONEZAWA Kei</i></p>

秋山伸

90年代半ばから、美術・建築の書籍や展覧会のデザインを数多く手がける。2010年末に東京の事務所 schtucco を解散し、新潟の豪雪地帯に移住。11年より自社の出版レーベル edition.nord をベースにソロ活動を開始。

講義内容に関する本 ……………
タイポグラフィの基礎
知っておきたい文字とデザインの新教養
小宮山博史 編 誠文堂新光社 2010
▶多角的なテーマからタイポグラフィが概説されている。各テーマが簡潔にまとめられているので初心者にも親しみやすい。

デザインを学ぶための本 ……………
TRAVERSES/2 デザイン
ジャン・ポードリヤール、アンリ・ボンヌマズー、ミッシェル・ドゥ・セルトー、シルベール・ラスコム、マルク・ル・ポ 編 今村仁司 監修 リポポート 1988
▶社会学や哲学からデザインをみると…

typographic reflections
helmut schmid design 1992-続刊
▶タイポグラフィーが政治や社会や芸術を直接映し出す試み

文字百景

朗文堂 | 1995-1999
▶文字愛好家のための大人のジン

賽の一振りは断じて偶然を廃することはないだろう
ステファヌ・マラルメ、フランソワーズ・モレル 著 | 柏倉康夫 訳 | 行路社 | 2009
▶具体詩の構成と校正

影響を受けた本 ……………
アドルノ 文学ノート 1
テオドール・W・アドルノ 著 三光長治、恒川隆男、前田良三、池田信雄、杉橋陽一 訳 みすず書房 2009
▶「形式としてのエッセー」……近代の(理性)をどうみるか

墮落論・日本文化私観 他二十二篇

坂口安吾 著 | 岩波文庫 | 2008
▶テクノロジーとどうつきあうか、日本とどうつきあうか

最近面白かった本、気になっている本 ……………
視覚論
ハル・フォスター 著 樽沼範久 訳 平凡社ライブラリー 2007
▶ものを売るためのデザインでないために……

デザインと犯罪

ハル・フォスター 著 | 五十嵐光二 訳 | 平凡社 | 2011
▶「デザインのインフレーション」から説するために……

ROADSIDE BOOKS 書評2006-2014
都築響一 著 | 本の雑誌社 | 2014
▶量販店で売られている本だけが本ではない。実はその存在のしかたはさまざま。

安藤隆 ANDO Takashi

コピーライター。サン・アド制作部。代表作はサントリーウーロン茶。1982年にはじめ、いまも関わっている。好きな仕事は村田製作所。しゃべるのが苦手で、書く仕事についた。人を笑わせられる仕事がしてみたいと、いま思っています。

老人力 全一冊
赤瀬川原平 著 ちくま文庫 2001
▶自分の限界がわかってから、自分のものができるようになる。自分発見のヒント。

1米七〇糶のブルース

横尾忠則 著 | 新書館 | 1969
▶子供のころから好きだった古くさいタッチの挿絵世界を現代の新しい絵画的表現に転化した。自分発見のヒント。

嘔吐

ジャン・ポール・サルトル 著 | 白井浩司 訳 | 人文書院 | 1994 (改訂新装版)
▶はじまりがあって終わりのわけではない、従来にない形式の、新しい小説のおもしろさ。

万延元年のフットボール

大江健三郎 著 | 講談社学芸文庫 | 1988
▶日常と伝説、東京と四国の森、現在と過去を往来する、イメージの距離のおもしろさ。

リキテンシュタインの漫画の拡大ポスター

▶アートとは、ないものを創造するとういうより、ここにあるものを別な場におくことで生まれる非日常、というような真理に気づかせてくれる。

「漫画ガロ」 つげ義春や糸井重里 (情熱のペンギンごはん)
▶文学系の漫画というより、漫画系の文学という気がする。文学は空間をもつことを目指すが、漫画系文学にははじめから空間がある。

イエン・ライナム Ian LYNAM

グラフィックデザイナー／ライター。2005年に東京でイエン・ライナム・デザインを設立。国内外の出版物へのデザイン史や批評記事の執筆を手がける。テンプル大学ジャパン非常勤講師、パームト美術大学美術学修士課程グラフィックデザインプログラム委員長。

講義内容に関する本 ……………
Looking Closer 3
Classic Writings on Graphic Design
Michael Bierut, Jessica Helfand, Steven Heller 編
Allworth Press 1999
▶ウィリアム・モリス、アルバン・ラスティグ、ポール・ランドなどによる、デザインやグラフィックデザインに関する歴史的で見事なエッセイ集。

American Modernism
Graphic Design 1920-1960
R. Roger Remington 著 Yale University Press 2003
▶アメリカのモダニズムの歴史概説書。

Earthquakes, Mudslides, Fires & Riots: California & Graphic Design
1936-1986
Louise Sandhaus 著 Metropolis Books 2014
▶カリフォルニアにおけるグラフィックデザインの発展に関するとても素晴らしい本。たくさんの美しい作品と歴史について紹介している。

Design Writing Research

Ellen Lupton & J. Abbott Miller 著 | Phaidon Press | 1999
▶グラフィックデザインとデザインの研究と歴史の交わりに関する本。この種の内容では最初の、また私がこれまでに読んだグラフィックデザイン関連の本の中で最高の一冊です。

欧文書体

その背景と使い方 (新デザインガイド)
小林章 著 | 美術出版社 | 2005
▶ラテンタイポグラフィに関する素晴らしい本。

講義内容に関する本 ……………
Onod / A Few Warm Stones / 온돌
Better Days Institute 2012-2014
▶オンドルは、韓国のグラフィックデザインの歴史を探索素晴らしいシリーズ。http://www.betterdays.kr/od/

The National Grid

自費出版 | 2009-2014
▶ナショナル・グリッドは、ニュージーランドのグラフィックデザイン史を紹介するシリーズ。http://www.thenationalgrid.co.nz/

ZERRO

松田行正 著 | 牛若丸出版 | 2003
▶実在または架空のヴィジュアルランゲージとコードについてのコレクション。私が世界で一番好きな本です。

日本語組版の考え方

向井裕一 著 | 誠文堂新光社 | 2008
▶日本語組版を詳しく解説。必読書!

1950年代日本のグラフィックデザイン
——デザイナー誕生
印刷博物館 編 国書刊行会 2008
▶日本におけるモダニストのグラフィックデザインの始まりをバイリンガルで包括的に紹介した本。

白井敬尚 SHIRAI Yoshihisa

株式会社正方形 (清原悦志主宰)を経て1998年に白井敬尚形成事務所設立、タイポグラフィを軸としたデザインワークに従事。2005年より「アイディア」のアートディレクションとデザインを担当。

デザインを学ぶための本 ……………
Grid Systems in Graphic Design
Josef Muller-Brockmann 著 Arthur Niggli 1996 (Bilingual版)
――
日本語組版の考え方
向井裕一 著 誠文堂新光社 2008

筆蝕の構造 書くことの現象学
石川九楊 著 ちくま学芸文庫 2003
――
ボン書店の幻 モダニズム出版社の光と影
内堀弘 著 ちくま文庫 2008
――
書物の宇宙 小野二郎著作品集
小野二郎 著 晶文社 1986
――

Meisterbuch Der Schrift

Jan Tschichold 著
――
タイポグラフィ・トゥデイ
ヘルムート・シュミット 著 誠文堂新光社 2003 (新版)

影響を受けた本・気になっている本 ……………
風土 人間学的考察
和辻哲郎 著 岩波文庫 1979
――
イタリア古寺巡礼
和辻哲郎 著 岩波書店 1991
――

海の都の物語 ヴェネツィア共和国の一千年

塩野七生 著 新潮社 2009
――
黒船
吉村昭 著 中公文庫 1994
――

海の祭礼

吉村昭 著 文春文庫 2004 (新装版)
――

冬の鷹

吉村昭 著 新潮文庫 1976 (改版)
――
私の好きな曲 吉田秀和コレクション
吉田秀和 著 ちくま文庫 2007

▶ デザインを学ぶための本と影響を受けた本については、明確な区分はありません。自分の中ではどれもが何らかのかたちで関係しあっています。その関係のさせ方がおもしろくて本を読むのを楽しめます。

本 起源と役割を探索
大養道子 著 岩波ジュニア新書 2004
▶著名な聖書学者が、グーテンベルクによる活版印刷本の源流を辿りつつ、紙の発明や刻印・書字のもつ、人類的な意味を平易に説く。
――
スイウ テクストから書物へ
ジェラルド・ジュネット 著 和泉涼一 訳 水声社 2001
▶書名や著者名、目次やあとがきなどの(本文以外)のテキストが(本文)を包むことで、書物は動的に生成する。本のなかの重層的な構造を読み解く。
――
横書き登場 日本語表記の近代
屋名池誠 著 岩波新書 2003
▶現在、当たり前になっている「左横書き」方式は、いかに日本語に定着してきたのか。(どの方向に行は形成されていくか)との新鮮な眼で日本語が見直される。
――
市川崑のタイポグラフィ
「犬神家の一族」の明朝体研究
小谷充 著 水曜社 2010
▶「犬神家の一族」「悪魔の手毬娘」など市川崑監督映画におけるタイポグラフィを吟味しながら、明朝体の変遷や日本的グリッドシステムまでを分析する。
――

ハングルの誕生 音から文字を創る
野間秀樹 著 平凡社新書 2010
▶ハングルなる文字体系はどのようにデザインされたのか。文字ひとつずつのなかに潜む、音や意味のレイヤーをスリリングに腑分けする。
――
本とその周辺
武井武雄 著 中公文庫 [改版] 2006
▶童画や小型私刊本製作など多様な活動で知られた著者は、ブックデザインの先行者でもあった。本がいかにして地上に降りたつかを、経験をとおして語る。
――
デザインと犯罪
ハル・フォスター 著 五十嵐光二 訳 平凡社 2011
▶デザインが、消費者の欲望を喚起しようと腐心し、人びとの人格を委容させているとしたら、それは(犯罪)である。デザインなる表層は構造をとり戻せるか。
――

編集デザインの発想法

ヤン・V・ホワイト 著 | 大竹左紀斗 訳 | グラフィック社 | 2007
▶読者は、ページを(めくる)行為を通じて書物に参加する。ページがどのように構成されるのか、編集とデザインを一体化させつつ考察する。

「本が売れない」というけれど

永江朗 著 | ポプラ新書 | 2014
▶ほんとうに人びとは本を読まなくなっているのか？ ネットの影響や書店の置かれた環境、図書館の変貌を考察しながら、あるべき書物の存在感を探る。

レイアウトの法則 アートとアフォーダンス
佐々木正人 著 春秋社 2003
▶世界は(配置)されてある。環境と情報とが折り畳まれた世界の肌理を、(レイアウト)の視点から横断的に読み解く。

影響を受けた本 ……………
こころ
夏目漱石 著
▶近代以前、男同士の距離は限りなく近かった。「恋愛」は外国から入って来た複製だった。などなど、明治時代のことを生々しく想起させてくれる一冊。ほぼ同時期に書かれた森鴎外「ムタ・セクスアリス」とあわせて読むとより楽しめる。
――
ナンバ走り
矢野龍彦、金田伸夫、織田淳太郎 著 光文社 2003
▶明治以前の歩き方は今と違って、たとえば右足を踏み出すときは右手を前に出すというふうに、腰をねじらない歩き方だった。これを「ナンバ」というのだが、今では忘れ去られてしまったこの動きがどれほど優れているかを、スポーツの実践を通して教えてくれる一冊。
――

ショック・ドクトリン 惨事便乗型資本主義の正体を暴く
ナオミ・クライン 著 岩波書店 2011
▶この50年にわたってアメリカが諸外国に何をしてきたかを詳細に調査報告しながら、「自由市場」という美名のもとにひそむ資本主義の根深い問題を明らかにした一冊。東日本大震災ののちに多くの識者が「いま読むべき本」にあげた。
――

戦後史の正体 「戦後再発見」双書
孫崎享 著 創元社 2012
▶戦後日本がどれほどアメリカの支配下にあるかを詳述した一冊。元外務省・国際情報局長の著書だけに迫力がある。「ショック・ドクトリン」とセットで読むとより理解が深まる。

副田高行 SOEDA Takayuki

アートディレクター。サン・アド、仲畑吉告制作所を経て、副田デザイン制作所主宰。シャープ AQUOS、トヨタ「ECOPROJECT」「ReBORN」、サントリー 小嶋キャンペーン、ANA「ニューヨークへ、行こう」など、広告を中心に多彩なアートディレクションを展開。

図録 葛西薫 1968

葛西薫 著 | ADP | 2010
▶私のサン・アド時代の同僚・葛西薫さんの集大成作品集。葛西さんとの出会いが、現在の私をつくったともいえるかもしれない。

成長から成熟へ さよなら経済大国
天野祐吉 著 集英社新書 2013
▶一昨年亡くなった天野祐吉さんの「広告批評」は、私の広告づくりの教科書だった。この本は、コラムニスト天野さんから現在の日本への遺言のようなメッセージ。
――
ADC年鑑2014
東京アートディレクターズクラブ 編 美術出版社 2014
▶日本のアートディレクション・デザインのなが、この一冊に凝縮されている。
――

デザインの輪郭

深澤直人 著 | TOTO 出版 | 2005
▶プロダクトデザイナーである深澤直人さんの独自のデザイン論は、ジャンルを超えてすべてのデザイナー・人間に真理を伝える。

ジョージ・ナカシマからミナ ペルホネンへ
永見真一 著 リトルモア 2013
▶ジョージ・ナカシマの家具と、ミナ ペルホネンの服。量から質の時代に移行する「ものづくりの国・日本」のひとつのあり方を示す一冊。
――

草野球必勝法

山口瞳 著 | 文春文庫 | 1983
▶若い頃、草野球のハウツー本と誤解して購入し出会ったこの一冊。私の人生観は山口瞳さんから多大な影響を受けることになり現在に至る。

タイタンの妖女

カート・ヴォネガット 著 | 浅倉久志 訳 | ハヤカワ文庫 SF | 1977
▶仲畑貴志さんから薦められて読んだこのSF小説は、まだ若かった頃の私の度肝を抜いた。

パパラギ はじめて文明を見た南海の酋長ツイアピの演説集
エーリッヒ・ショルマン 著 岡崎照男 訳 ソフトバンク文庫 2009
▶はじめて文明を見たサモアの酋長ツイアピの話は、すべての現代人にとっての痛烈な文明批評。
――

チープシック お金をかけないでシックに着こなす法

カテリーナ・ミリアネ、キャロルトロイ 著 | 片岡義男 訳 | 草思社 | 1977
▶Tシャツやジーンズなど、それまでの価値観を根底から覆した一冊。「チープシック」という概念は、私の広告作法にも影響を与えた。

文字本

片岡朗 著 | 誠文堂新光社 | 2006
▶人気の書体「丸明ゴールド」というフォントを5年かけて制作した片岡朗さんによる、文字にまつわる話満載、デザイナー必見の一冊。

大人の迷子たち

岩崎俊一 著 | 廣済堂出版 | 2014
▶コピーライター岩崎俊一さんの、悲しみやよろこび、切なさやときめきのつまった珠玉のエッセイ集。昨年12月死去。本文をカバーにあしらった装丁は、副田高行。

鷹野隆大 TAKANO Ryudai

写真家。1963年福井県生まれ。94年の初個展以来、身体やセクシュアリティをテーマに、他者との関係を問い直す作品発表を続けている。主な個展に「ヨコたわるラフ」(2000年、ツァイ・フォト・サロン、東京)、「男の乗り方」(06年、同)など、06年に初の写真集「IN MY ROOM」(寄写舎)で第31回木村伊兵衛賞を受賞。

講義内容に関する本 ……………
写真小史
ヴァルター・ベンヤミン 著
▶100年近く前に書かれたものでありながら、写真の本質はいまも変わらないことを教えてくれる一冊。
――
明るい部屋 写真についての覚書
ロラン・バルト 著 みすず書房 [新装版] 1997
▶言わずと知れた写真の名著。母の面影をもとめて写真を探し続けるところは、ちょっとした推理小説のよう。
――

『写真時代』の時代！

飯沢耕太郎 著 白水社 2002
▶ひとつの雑誌についての熱い語り聞くうちに、気がつくくと80年代が見えている好き。
――

反写真論

倉石信乃 著 | 河出書房新社 | 1999
▶文章が難解でとつきにくいが、丁寧に読むとスルメのように味わい深い、お薦めの一冊。

永遠に女性的なる現代美術

清水稯 著 | 淡交社 | 2002
▶給水塔で有名なベッキヤーの作品を、ヨーロッパ戦後史のなかで読み解いた視点は目うるこ。

影響を受けた本 ……………
こころ
夏目漱石 著
▶近代以前、男同士の距離は限りなく近かった。「恋愛」は外国から入って来た複製だった。などなど、明治時代のことを生々しく想起させてくれる一冊。ほぼ同時期に書かれた森鴎外「ムタ・セクスアリス」とあわせて読むとより楽しめる。
――

ナンバ走り
矢野龍彦、金田伸夫、織田淳太郎 著 光文社 2003
▶明治以前の歩き方は今と違って、たとえば右足を踏み出すときは右手を前に出すというふうに、腰をねじらない歩き方だった。これを「ナンバ」というのだが、今では忘れ去られてしまったこの動きがどれほど優れているかを、スポーツの実践を通して教えてくれる一冊。
――

ひえもんとり
里見弴 著
▶江戸時代、薩摩にあった独特の風習を描いた短編小説。「ひえもん」とは肝のことで、これは人間の肝を取る話。現在との身体感の違いをリアルに体感させてくれる一編。
――

ショック・ドクトリン 惨事便乗型資本主義の正体を暴く
ナオミ・クライン 著 岩波書店 2011
▶この50年にわたってアメリカが諸外国に何をしてきたかを詳細に調査報告しながら、「自由市場」という美名の裏にひそむ資本主義の根深い問題を明らかにした一冊。東日本大震災ののちに多くの識者が「いま読むべき本」にあげた。
――
戦後史の正体 「戦後再発見」双書
孫崎享 著 創元社 2012
▶戦後日本がどれほどアメリカの支配下にあるかを詳述した一冊。元外務省・国際情報局長の著書だけに迫力がある。「ショック・ドクトリン」とセットで読むとより理解が深まる。

田中良治

TANAKA Ryoji

1975年三重県生まれ。アートディレクター／ウェブデザイナー。同志社大学工学部／岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒業。2003年に株式会社セミランスベアレント・デザインを設立。ウェブ広告を制作し国内外の広告賞を多数受賞。また、ICC、YMCA、クリエイションギャラリー GB、ボンビドゥーセンター、21_21 Design sight でインスタレーション展示もおこなっている。

ゲルハルト・リヒター写真論／絵画論

ゲルハルト・リヒター 著 | 淡交社 | [増補版]2005

▶ゲルハルト・リヒターによる写真論／絵画論はひらめきや知識だけでなく勇氣やモチベーションも与えてくれる

秘密の知識

デヴィッドホックニー 著
▶デヴィッドホックニー(作家)はこんなことやってる!(やらないといけない?)という驚きと表現にいたるまでのプロセスの奥深さを知ることができる。

IDEA No.366

ポスト・インターネット時代のヴィジュアル・コミュニケーション
誠文堂新光社 | 2014

▶光るグラフィック展の関連イベントで催された勝井三雄氏とラファエル・ローゼンダール氏によるトークショーの内容が掲載されている。

アメリカの夜

阿部和重 著 | 講談社 | 2001

▶ブルースリーの格闘道の話はそのまま表現にも驚がる。

幽霊たち

ポールオスター 著
▶gggで行われた「Semitransrent Design 退屈」で展示した作品のタイトルをこの本の書き出しを引用しました。

中垣信夫

NAKAGAKI Nobuo

杉浦康平デザイン事務所勤務のち、73年、中垣デザイン事務所設立。西欧で学んだタイポグラフィをひとつの指標として、日本文化に根ざしたデザインに活かす道を一貫して追求している。平凡社ライブラリー 800冊、「字通」(平凡社)、「花鳥風月」(今井俊満著、美術出版社、講談社出版文化賞) など。

かたち誕生 図像のコスモロジー（万物照応劇場）

杉浦康平 著 | NHK出版 | 1997

▶クレアが「西欧で形態の意味を考察し、杉浦が東洋でかたちの意味を考察する。

グーテンベルクの銀河系 活字人間の形成

マーシャル・マクルーハン 著 | 森常治 訳 | みすず書房 | 1986

▶社大な書物文化史であると同時に書物の未来学とも言える。

にほんのかたちをよむ事典

形の文化会 編 | 工作舎 | 1994

▶日本の形文化の集大成。テーマの選択も優れている。

Envisioning Information

Visual Explanations: Images and Quantities, Evidence and Narrative

The Visual Display of Quantitative Information

Edward R. Tufte 著 | Graphics Press | 1990

Visual Explanations: Images and Quantities, Evidence and Narrative

Metropolitan World Atlas

情報の歴史

松岡正剛 監修 | 編集工学研究所 構成 | NTT出版 | 1996 (増補版)

▶情報が複数の次元で並列しながら年表化され、「同時代性」を読み解く楽しみが味わる本。

Metropolitan World Atlas

Arjen van Susteren 著 | 010 Publishers | 2005

▶全頁都市に関する基礎データのグラフと地図のみ。形式を揃えることによってデータの変数を示すことが体現された本。

I swear I use no art at all

Joost Grootens 著 | 010 Publishers | 2011 (Second edition)

▶出版人でありデザイナーでもあるヨーストグローテンス初の作品集。ステレオタイプな作品集とは一線を画すその編集内容に情報の可視化への強いこだわりを感じる本。

視覚の領界

視覚の地平線

世界のグラフィックデザイン ヴィジュアルコミュニケーション

世界のグラフィックデザイン エディトリアルデザイン

文字百景 060 タイポグラフィを支えるもの

松田行正

グラフィックデザイナー。ブックデザインを中心に活躍中。出版社「牛若丸」主宰。著書に「眼の冒険」(紀伊國屋書店、第37回講談社出版文化賞ブックデザイン賞受賞)など。最新刊は「ヒョウタン美術館」(牛若丸)。

インフォグラフィックで見る 138億年の歴史

デカルトの悪魔はなぜ笑うのか

喰らう読書術 一番おもしろい本の読み方

ライズズ 線の文化史

名作家具のヒミツ

2040年の新世界

ヒョウタン美術館

日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で

メディアの技術史 洞窟画からインターネットへ

向井周太郎

時的冒険 デザインの想像力

和的 日本のかたちを読む

かたちの詩学 morphopoiësis I・II

講義との連関で——他者からの創造の恵み——自著から ……………

生とデザイン かたちの詩学 I

向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2008 | 編集 角谷涼子

解説+カバーデザイン 原研哉 | 本文デザイン 原研哉+秋山孝子

デザインの原像 かたちの詩学 II

向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2009 | 編集 角谷涼子 | 解説 深澤直人

カバーデザイン 原研哉 | 本文デザイン 原研哉+秋山孝子

▶上記2冊は先の「かたちの詩学 morphopoiësis I・II」を文庫版として再構成したものだ。

デザイン学 思索のコンステレーション

ふすま 文化のランドスケープ

向井一太郎、向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2007 | 編集 角谷涼子

菜 伊藤ていじ | 解説 金子務 | カバーデザイン 山口信博+大野あかり

▶1997年、住まいの図書館出版局から刊行の「ふすま」の文庫化。

デザインを「みぶり」から考察するうえで、想像力を喚起された主な本から ……

「いき」の構造 他二篇

陰翳礼讃

風土 人間学的考察

「かたちのポイエーシス (morphopoiësis) 探究との連関から ……………

胎児の世界 人類の生命記憶

スモール イズ ビューティフル 人間中心の経済学

デザインへ私の進路を変えた一冊……………

白バラは散らず ドイツの良心 ショル兄妹

ドイツ・ショル 著 | 内垣啓一 訳 | 未来社 | 1964

▶この原書「Die weiße Rose」(1955年)との出会いは衝撃的でした。著者紹介には、このショル兄妹追悼記念として、ウルム造形大学発足のメッセージが放たれていて、私の同大学留学への契機となったからです。

技術への問い

マルティン・ハイデgger 著 | 平凡社ライブラリー | 2013

デザインと犯罪

ハル・フォスター 著 | 五十嵐光二 訳 | 平凡社 | 2011

さまざまな空間

弓と禪

オイゲン・レハゲル 著 | 稲富栄次郎、上田武 訳 | 福村出版 | 1981

声の文化と文字の文化

W.J. オング 著 | 林正寛、糟谷啓介、桜井直文 訳 | 藤原書店 | 1991

文学とテクノロジー 高山宏セレクション (異貌の人文学)

ヨーロッパ退屈日記

伊丹十三 著 | 新潮文庫 | 2005

山崎和彦

YAMAZAKI Kazuhiko

デザイナー／千葉工業大学デザイン科学科教授。クリナップ(株) デザイン室、日本IBM(株) デザインセンター長を経て現職。グッドデザイン賞審査委員、HCD-Net 副理事長。代表作品は「ThinkPad」。主な著書は「エクスベリエンス・ビジョン」。

アキッレ・カスティリオーニ 自由の探求としてのデザイン

多木陽介 著 | アクシス | 2007

▶カスティリオーニの作品や活動を通して、モノとデザインの原点が分かる本

From Lascaux to Brooklyn

Mr. Paul Rand 著 | Yale University Press | 1996

▶ポーランドが死ぬ直前に後世のデザイナーに残した遺言書。世界の美しいモノの秘密を探した活動と作品の解説を通して、デザインとは何か語っている。

Envisioning Information

Edward R. Tufte 著 | Graphics Pr | 1990

▶複雑な情報をどのように表現すれば、分かりやすく伝えることができるのか、豊富な事例を通して紹介している。

ムナーリのことば

ブルーノ・ムナーリ 著 | 平凡社 | 2009

▶クリエイションをする人は、まず読んでみる必要がある本。

RE DESIGN 日常の21世紀

原研哉 著 | 朝日新聞社 | 2000

▶日常の道具をリ・デザインすることで、新しい世界が広がる事例を紹介している。

ウェブ戦略としての「ユーザーエクスペリエンス」

Jesse James Garrett 著 | 毎日コミュニケーションズ | 2005

▶ユーザーエクスペリエンスの考え方やアプローチを紹介してくれる。

情報デザインの教室

情報デザインフォーラム 著 | 丸善 | 2010

ビジネスモデル・ジェネレーション

ビジネスモデル設計書

アレックス・オスターワルダー 著 | 翔泳社 | 2012

▶ユーザー、ビジネス、デザインを結び視覚化のためのやり方学を学べる。

エクスペリエンス・ビジョン

ユーザーを見つめてうれしい体験を企画するビジョン提案型デザイン手法

山崎和彦 他著 | 丸善出版 | 2012

▶ユーザー体験という視点より新しいビジョンを提案するためのアプローチを学べる。

ムーン・トラックス タイガー 立石のコマ割り絵画館

タイガー立石 著 | 工作舎 | 2014

画家であると同時に漫画家であり、イラストレーターであり、彫刻家でもあったタイガー立石による絵のない絵本ならぬ、文字のない物語集。月がキャベツに、街が果実に、ヒトが宇宙に、空間が時間に変幻する。附録としてアイデア・ノートも。

自然を名づける

キャロル・キサク・ヨーン 著 | 三中信宏+野中香方子 訳

NTT出版 | 2013

「分類学」とは自然に言葉を与える作業でもある。実は、科学を知らない辺境の民族と最先端の生物学者は、自然を前にしたときその「表現力」に大きな差異はない。一方、最新の分岐分類学によると「魚」という概念が消失してしまうという不思議がある。

書樓甲堂 破曉

京極夏彦 著 | 集英社 | 2013

泉鏡花、井上円了、巖谷小波たちと書物との出会いの物語だが、江戸と明治の本づくりの断絶と近代出版事業の創成がもうひとつのテーマ。元デザイナー、京極夏彦独自の文字組を意識した文体リズムも堪能できる。

――

柳多留名句選 上・下

山澤英雄 校訂 | 岩波書店 | 1995

江戸川柳の代表的作品集。「柳多留」や「武玉川」など、少し拾い読みするだけでも、近世の日本人が言葉に対して驚くほど自由な感覚と幅広い教養をもっていたことに気づかされる。近代以降、日本人の言語能力は劣化したのだろうか。

永続敗戦論 戦後日本の核心

白井聡 著 | 太田出版 | 2013

「敗戦」を「終戦」に言い換える。そんな「ちょっとした」言葉の操作によって、日本の戦後は多くの重大なことに目を向けることができなくなってしまった。だいたい日本は、連合国の占領下から独立したにもかかわらず「独立記念日」さえ存在しない。

にほんとニッポン 読みとばし日本文化譜

松岡正剛 著 | 工作舎 | 2014

これまでで語られ、書き綴られた20余冊の松岡日本学をリミックスして1冊の日本通史にコンデンス。日本文化史最大の発明は「仮名」であったとする指摘をはじめ、「はかなさ」「あわれ」「幽玄」「おび」「さび」などのジャパン・コンセプトの起源にも迫る。